

平成 30 年度第 2 回札幌市はつらつシニアサポート事業評価委員会 概要

1 日時 平成 30 年 9 月 27 日（木）14 時～16 時

2 場所 札幌市役所本庁舎 14 階 3 号会議室

3 議題

平成 30 年度シニアチャレンジ事業申請案件の審査

4 出席者

(1) 委員（五十音順）

中田 雅美

畑 亮輔

隼田 尚彦

(2) 事務局

保健福祉局高齢保健福祉部長

佐々木

保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課長

柴垣

保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課生きがい支援担当係長

藤谷

保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課高齢福祉係

安念

5 議事の概要

事務局から 1 件の申請案件の概要について説明し、団体からプレゼンテーションを受けるとともに、ヒアリングを行った。審議を行った結果、条件を付して補助金を交付することが適当であるとの評価がなされた。

■ 申請団体

一般社団法人健康生きがいづくりアドバイザー北海道協議会

（事業名：チ・カ・ホでフレイル（虚弱）を知って健康寿命を延ばそう 副題：人生 100 年時代を生きるために）

■ 採択条件

「高齢者自身が実施する、健康寿命延伸に向けた普及啓発活動」として展開すること

■ 評価委員会における主な質疑・評価内容は以下のとおり。

○（委員）「フレイル」が、市内で展開されている他の介護予防活動と比較しどのような差異があるのか。

⇒（団体）「フレイル」にはイレブン・チェックという簡易チェックシートと、深掘りチェックという専門的なものがある。前者はフレイル

の前兆をつかむものであり、これにより現状と予防方法などを情報提供できると考えている。

○（委員）事業当日は各日5名がスタッフとして対応するとのことであるが、この5名はどのような方か。

⇒（団体）まだ確定はしていない。フレイル専門のセミナーに出た者から選定する。また、会員の中には保健師や介護関係の者もいるため、このような知識のある者をスタッフとしたいと考えている。

○（委員）フレイル自体は先駆的なものとは評価できない。ただし、生きがいづくりアドバイザーとして専門性を持ちながら各分野で活動している高齢者会員自身が、介護予防を自ら実践し、それを啓発しようとする活動については評価できる。

○（委員）「フレイル」だけではなく、団体の他の取組も周知をしたうえ、その中の一つとして「フレイル」に取り組んでいる立ち位置が明確に分かる活動内容が求められる。

6 上記評価を受けた本市の対応

評価委員会後、申請団体に対し、採択条件及び評価委員会における評価内容を説明し、条件に対する団体の考えについて追加資料の提出を依頼。また、チ・カ・ホにおいて歩行者の興味を引き足を止めてもらうための工夫や、当日活動する5名のスタッフの年齢・得意分野等について、あわせて資料の提出を依頼。

7 申請団体からの回答概要

○採択条件を踏まえ、当会員各自が生きがい活動を行っている団体として、健康寿命を延ばすためには社会参加活動を行うことが効果的であることをPRする。

○事業名を「人生100年時代に向けて健康寿命を延ばそう」、副題「生きがい活動を行い、フレイルを予防しよう」に改める。

○チ・カ・ホにおいて歩行者に足を止めてもらうための工夫として、生きがい活動を実施しているアドバイザー資格会員が、イベント会場で笑いヨガ、歌う腹話術等の活動の披露を行う。また、新聞社に事業について記事掲載を依頼する、市内高齢者団体に事業の情報提供を行うなどして周知を図る。

○当日活動する5名のスタッフは、栄養士、看護師等の資格を持ち、介護施設や高齢者対象のイベントで活動する者。当該スタッフ及びイベント会場で活動を披露するスタッフは60歳以上の者を中心とする。

8 本市の決定

採択条件を満たしていると判断されるため、補助金交付が適当である。